

PFS/SIB 首長セミナー

湯梨浜町 健幸ポイント プロジェクト

湯梨浜町長 宮脇正道



湯梨浜町の概要と健康課題



平成16(2004)年10月1日に羽合町、泊村、東郷町が合併して誕生

●人口:16,134人(令和7年6月末時点)

●高齢化率:33.3%(令和7年6月末時点)

●面積:77.93km²

●町の課題

- 生活習慣病が重症化した脳血管疾患の標準化死亡比が県や全国と比較して高い傾向
- 県と比較して血圧の有所見者が高い傾向にあり、血圧や血糖に起因する生活習慣病1人当たり医療費が高い
- 後期高齢者の増加による医療費・介護給付費の増額が見込まれ、町の自主財源の減少が懸念される

事業概要

- ・医療費・介護給付費の適正化を目指し、健康無関心層を対象にインセンティブ付健康プログラムを提供することで参加者の意識変容を促す取り組み

主な取り組み

- ・ゆりはまヘルシーくらぶ

健康づくりと健康寿命延伸のため、ウォーキングを中心とした運動を楽しみながら行う事業。歩数や消費カロリーを測定できる活動量計を持ってウォーキングしたり、体組成と血圧を測定し自身の健康管理したりすることなどでポイントをため、景品と交換する事業。令和7年10月末現在で1,367名参加。

- ・健幸アンバサダー事業

健幸アンバサダーを養成し、健康や暮らしに役立つ知識を学び、大切な人に情報を伝えることで、地域の健康づくりに対する関心を高めるための活動をする事業。令和4年度から現在で102名養成。

経緯

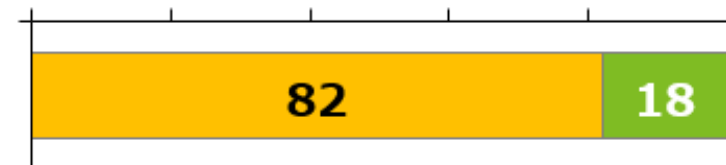
- 2018(平成30)年10月12日、県・町・タニタヘルスリンク(以下「THL」)が「ゆりはま食と健康のまちづくり事業に関する協定」を締結
- 2018(平成30)11月12日、Smart Wellness City首長研究会に加盟100自治体目として加盟
- 2018(平成30)11月10日、健康プログラム「ゆりはまヘルシーくらぶ」の募集を開始。2019(平成31)年1月1日より事業をスタート
- 2019(令和元)年10月31日、次年度より「SIBを活用した飛び地型自治体連携事業」の第3期目自治体として取り組み開始を検討
- 2019(令和元)年11月22日・23日、当時同様の健康プログラムを実施していた高石市を視察し、取り組み状況の聞き取りや、マルシェでの物販を実施
- つくばウエルネスリサーチ主催の事業準備会、金融機関説明会などを経て、年度末にかけて地方創生推進交付金(デジタル田園都市国家構想交付金)の実施計画を作成
- 2020(令和2)年4月1日より大阪府高石市、福岡県飯塚市、奈良県田原本町とSIB事業始動(KGIとして令和6年度における医療・介護給付費の抑制効果額を4市町合計で11.8億円を設定)
- 2025(令和7)年3月31日をもってSIB事業が終了
- 2025(令和7)年7月1日から内閣府成果連動型民間委託契約方式推進交付金で湯梨浜町単独で事業を継続

成果

参加者の80%が運動不十分層

0 20 40 60 80 100 (%)

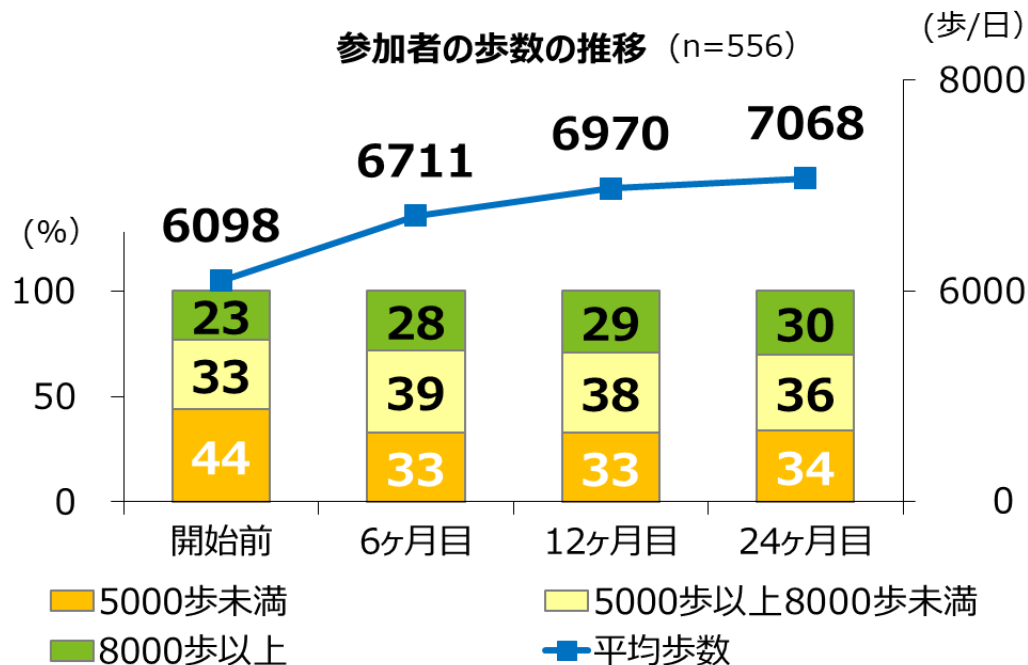
湯梨浜町
(n=1484)



■ 運動不十分層 ■ 運動充分層

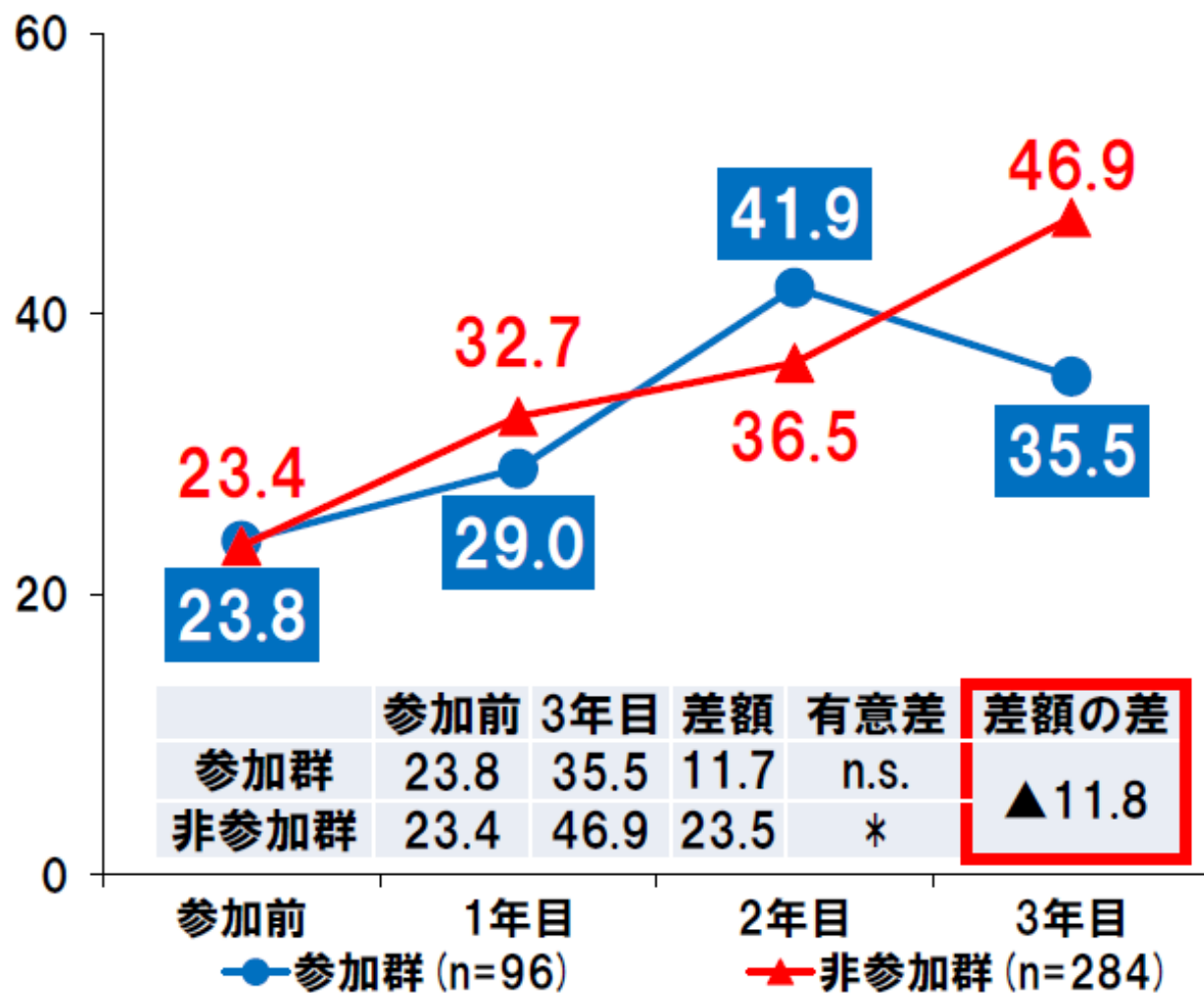
開始2年間で970歩増加
5000歩未満の割合が11%減少

参加者の歩数の推移 (n=556)



年間1人当たり医療費+介護給付費

(万円/年)



今後の展開

社会保障費の適性化効果を高めるための課題

- | | |
|-----------------|---|
| 1) 75歳以上市民の参加促進 | 参加者のうち75歳以上割合が15%に留まる |
| 2) 参加者の身体活動量の増加 | 開始前の運動不十分層のうち、開始3か月後に1500歩以上増加した人の割合 30%に留まる（目標60%） |

内閣府成果連動型民間委託契約方式推進交付金の採択を受け 新たなPFS活用健幸ポイントプログラムを実施中

■新たなK P I の設定

- ・ 新規参加者の20%が75歳以上
- ・ プログラム継続率 85%以上
- ・ 参加者の6000歩/日以上の割合 50%以上

■アウトカムに対する成果報酬を新たに設定

- ・ 毎年のKPI達成度に応じた成果連動支払いに追加し、5年間の 社会保障費の累積抑制額1.5億円の達成有無に対する成果報酬を設定（報酬額最大330万円）。

